

こうなったら嬉しいこと

白河市立白河中央中学校 3年 室 凜太郎

僕は、小学校一年生から今まで、特別支援学級に在籍している。教科によっては普通学級でも授業を受けている。僕はこの特別支援学級にいることによって大きないじめは受けたことはないが、特に小学校低学年の時、普通学級の人から、「何で同じクラスなのに、時々しか来ないの?」「何で普通に喋れるのにあっちのクラスなの?どこか体とか悪いの?」などたくさん質問されることがあった。その時は自分もなぜ支援学級に行っているのかがよく分からなかったこともあって、答えに困り黙り込んでしまうことがよくあった。

特別支援学級には、例えば、音が苦手な人、大人数の中で聞きたい声を聞き分けることが難しい人...など、人によって個人差があるが、大人数よりも少人数の方が安心して過ごせる人たちが集まっていると思う。

それから、特別支援学級の教室の場所が、なぜ普通学級から離れている所にあるのか疑問に思っていた。普通学級への移動がとにかく大変だった。休み時間は少なくなるし、トイレに行く時間も急がなくてはならないし...いつも少しイライラしていたような気がする。それから、クラス対抗の行事の場合、急に団結力を迫られることがあり、普段、その教室にいない僕は、とても困ったこともあった。そのため、クラスの人に、「何で出来ないんだよー!」と何気なく言われた一言にちょっと悲しくなったこともあった。僕は「ごめん!」という言葉でその場を凌げたが、中にはちょっとした言葉に悩んでしまったり、学校に来られなくなったりする人もいる。冒頭で述べた、普通学級の人からの質問も、ここで言った何気ない一言も、ただの疑問や感想であって、悪気はないのだけれど、言われた方は気にしてしまったり、落ち込んでしまう人も多い。意地悪をされてしまったと受け止めてしまう人も多いと思う。それでは、一体どうすれば良いのだろうか、考えてみた。

学校の中に特別支援学級というものがあるのならば、この学級はどのようなクラスなのか、どのようなことをしてあげれば良いのか、先生や児童、生徒が全員共通で、把握してくれると嬉しい。そして、分からない時には、どんどん質問して欲しい。しかし、小学校低学年の場合は、質問されても、答えられないことが多いので、その点は、先生や大人が偏見をせずにきちんとした理解の

上で、答えてくれるとありがたい。

僕は、支援学級にいるから、目立たない方がいいのかなと思ってしまうことがあった。なので、積極的になれなかったり、自分の意見を言えなかったりしていたと思う。もしかしたら逆に、普通学級の人たちの中にも、気を遣って僕たちにあまり話しかけない方がいいのでは？とっていた人もいるかもしれない。そのような見えない壁が、いつの間にか出来ていたのかもしれない。「壁やルールは思い込んでいるだけで最初からないのだ」と言う歌の歌詞を聞いた時、本当にその通りだと思った。勝手に壁を作ったのは僕なのかもしれない。そんな壁を取り払うには、学年の始まりに特別支援学級について、どんなクラスなのか話して欲しい。集団行動が苦手だということ、大きな音が苦手だということ、困っているようだったら先生を呼んで欲しいこと、無視してしまうかもしれないけど、話しかけられたら本当は嬉しいということ、でもそれをうまく表現出来ないこと...これは、支援学級とか普通学級などの問題ではなく、人として思いやりの気持ちを持って接していければいいと思う。特別支援学級だからといって、特別扱いをして欲しい訳ではない。こちらの事を少しでも理解して欲しい。もちろん、理解をしてもらえばかりではなく、僕たちも相手の事を少しでも理解出来るよう、行動していきたい。

僕たちについての質問は、どんな物でも怒らずに、素直な意見をどんどん聞いてほしい。例えば、「普通じゃないからそのクラスにいるんでしょ？」のような、一見「何でそんなこと言うの！」と注意したくなる質問でも、何も分からない低学年の人なら、普通に思い浮かぶ疑問だと思う。悪気のあるものではない。そこは、共感しながら、「そうだね、そう言うふうに思うかもしれないよね、だけど違うんだよ。人がいっぱいいると出来ないんだけど、少ない人数で詳しく教えてあげると、できることがたくさんあるんだよ。」と伝えてあげると、質問した人も「そっか。じゃあ困っている時は詳しく教えてあげればいいんだね。」と、どんどん接し方が広がっていくのではないかなと思う。できれば、注意するだけではなく、どうすればいいのかも詳しく教えてあげて欲しいと思う。また、各学級や保健室などに、取扱説明書を提示し、どんどん交流を深めて、安心して学校生活を送れるようになって欲しいと僕は思う。